



2019年度「オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業」 事業実施報告書

- | | |
|-----|------------------------------------|
| I | スポーツ及びオリンピック、パラリンピックの意識や歴史に関する学び |
| II | マナーとおもてなしの心を備えたボランティアの育成 |
| III | スポーツを通じたインクルーシブな社会（共生社会）の構築 |
| IV | 日本の伝統、郷土の文化や世界の文化の理解、多様性を尊重する態度の育成 |
| V | スポーツに対する興味・関心の向上、スポーツを楽しむ心の育成 |

道府県・政令市名【 茨城県 】

学校名【 茨城県立多賀高等学校 】

1 実践テーマ	V
2 実施対象者 (学年・人数)	1 オリンピアンとコーチによる講演 …全校生徒 714名 2 オリンピアンとコーチによる実技指導…陸上競技部生徒 43名
3 展開の形式	(1) 学校における活動 ① 教科名 () ② 行事名 (オリンピック・パラリンピック教育推進事業) ③ その他 () (2) 地域における活動 ① イベント名 () ② その他 ()
4 目標 (ねらい)	・オリンピアンを招聘し、生徒にスポーツを楽しむ心の醸成を図る。 ・指導者と選手という立場を理解し、目標に向けて取り組むプロセスやその意義を感じる。
5 取組内容	1 日時 令和元年10月29日(火) 13:25~15:25 2 場所 多賀高等学校 体育館 3 講師 飯塚翔太選手 リオ五輪4×100mR 銀メダリスト 豊田裕浩氏 中央大学陸上競技部コーチ ※多賀高第37回卒・飯塚選手のコーチ 4 内容 講演(60分) 演題「スポーツを楽しむための『余裕と遊び心』」 ・自己紹介(プロフィールを含めながら) ・夢や目標を達成するために。 (ワークシートを穴埋めしながら) ・2020東京オリンピックへ参加しよう。 ・飯塚翔太クイズ&飯塚翔太に挑戦・質疑応答
	 



実技指導（60分）

「速く走るためのコツを現役オリンピックから直接指導」

- 準備体操から気を付けること。• 体の使い方について。
- 足と地面の正しい接地のさせ方について。



6 主な成果

- 1 飯塚選手という実績も素晴らしい、メディアにも数多く取り上げられている選手が、本校に来校してくださったことに生徒たちは本当に感激していた。講演は非常に温かく親しみやすい口調で話をさせていただくとともに、「夢や目標を達成するために」は自分のためだけではなく、『誰かのために』と思うとモチベーションが上がることや、辛い練習の時ほど『笑顔と心に余裕を持ち楽しめる気持ちでいること』、また『何事も起こったらありがたい精神』をもつことなど、生徒たちの心をつかむ言葉が多くあり、生徒たちは大変感銘を受けていた。さらに生徒からの要望で短距離走を行っていただいた際にも、笑顔で楽しみながらも真剣に取り組んでくださり、講演の内容と実際の行動とに矛盾がないことについてさらに感動していた。生徒たちが本当に心からこの時間を楽しむとともに、遠い存在であったオリンピックの世界を、確かな実感として感じとることができる貴重な時間となった。
- 2 豊田コーチが本校OBであることに、多くの生徒が誇りに感じたようであった。また来年の東京オリンピックに向けて、私たちに何らかの関わりを持ってほしいことと、これからは日本の中だけではなく世界の中での自分を意識すること、そのためには語学が必要であるという話をしてくださった。生徒たちの感想文の中には、自分の現在の語学学習に対するモチベーションや意欲が高まったというコメントや、将来の仕事として語学を活かした職業に就きたいというコメントも数多くみられ、スポーツの話を通しながらも将来の自分探しのきっかけとなった生徒も多くみられた。
- 3 陸上競技部の生徒にとっては「夢」のような時間となった。実際に指導を受けながら、質問をしたり、姿勢を矯正していただいたりと大変貴重な時間となった。今年度関東大会に13名の選手が出場することができたが、さらなる飛躍が期待できる大きなモチベーションアップの実技指導をしていただいた。

<p>7 実践において工夫した点 (事業の特色)</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1 本校OBの豊田コーチと昨年の2月にお話をする機会を得た。そこで飯塚選手の講演を多賀高で行える機会を作っていただけることになり、今回のオリンピック・パラリンピック教育推進事業で実施させていただけることになった。私たち教員が、生徒たちのためにできることを、学校内にとどまらず広い視野を持ちアンテナを高くしておくことが大切であると再認識した。 2 講演内容については、豊田コーチと打ち合わせを行い、本校生の求めている内容と、講演いただく内容をうまく合致できるように工夫していただいた。真剣で心に響く内容の他にも、飯塚翔太クイズなど生徒たちが楽しめる内容にいただいた。飯塚翔太クイズでは、最後まで正解できた生徒に飯塚選手からメダルを掛けていただき一緒に写真を撮っていただくなど、ふれあいの場面を多くとっていただいた。 3 パワーポイント画面をワークシート形式の穴埋め形式にするとともに、感想文も記入できる形式にしたことにより、講演後すぐに陸上競技部以外の生徒は教室で感想文作成をすることができた。また本校で行っているclassiのポートフォリオ機能にすぐに書き込める時間を持つことができ、この行事が生徒にとって振り返りを持つことができるように配慮した。
<p>8 主な課題等</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1 今回の事業をとりしきる校務分掌が存在せず、教務部が担当した。特別活動部やほかの先生方からも力を借りることができ、運営はスムーズに実施できた。しかしながら運営主体を明確にしておき、事前準備に力を割いておくことがこれからのについても重要であると感じた。 2 今回は、講演者が選定できた段階から、生徒たちの事業に対する動機づけが大きいものになると確信をしていた。これからも生徒の思いと合致をした方に来校をしていただき、今回のような講演や実技指導を学校行事として行えればうれしいと考える。しかしながら、推進校であれば予算を計上することができるが、推進校でない場合は予算確保が難しいことが予想され課題としてあげられる。
<p>9 来年度以降の実施予定</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1 来年度は東京オリンピック・パラリンピックということで、今回の講演と実技指導の経験を、生徒たちが何らかの形として表現できるように指導をしていきたいと考えている。